

地域史料保全有志の会主催

第2回栄村の文化と自然報告会

栄村の歴史文化と自然を再発見!

～ 知れば知るほど栄村はすごい! ～



公民館報

さかえ

第352号

令和5年5月1日発行

■ 発行
 栄村公民館
 〒389-2703
 長野県下水内郡栄村
 大字堺9214-1

■ 電話
 0269-87-2100

■ 編集
 栄村公民館報編集委員会

- 13:00～13:05 開会の挨拶／白水 智(地域史料保全有志の会)
 13:05～13:15 教育長挨拶／下 寿郎
【身近な遺跡と自然を知ろう!】
 13:20～13:40 長瀬新田遺跡表採資料の概要
 高橋健樹 (武蔵村山郷土の会事務局長)
 13:45～14:05 すごいぜ!栄村の自然 Part3
 ～保全活動の取組からわかる希少種の実態～
 涌井泰二・広瀬明彦 (栄村希少動植物調査員)
 14:10～14:30 はたして、忌避剤により“秋山熊”から森を守れたのか?
 柳澤賢一 (長野県林業総合センター研究員)
 14:35～14:55 栄村で2022年に発生した2箇所の斜面崩壊について
 長谷川裕彦 (明星大学)
 ***** 休 憩 *****
【秋山郷を知る小特集!】
 15:10～15:30 「秋山」の始まりについて
 白水 智 (中央学院大学/地域史料保全有志の会)
 15:35～15:55 秋山木鉢を作る・使う 一木鉢にみる秋山のくらし
 井上卓哉 (静岡県富士山世界遺産センター)

令和5年3月25日(土)役場かたりホールで、地域史料保全有志の会主催、教育委員会・栄村公民館共催で「栄村の歴史文化と自然を再発見!」と題するイベントが開かれました。

今回の発表も盛りだくさんで、多くの新発見もある楽しい会となりました。少しだけ、その楽しさを紙面でお伝えいたします。

◆栄村の姉妹都市である武蔵村山市郷土の会の高橋さんによる

「長瀬新田遺跡表採資料の概要」では、長瀬新田遺跡の解説とともに、過去に長瀬新田から採取されたと思われる土器を整理しているという発表がありました。その土器の中で、村宝の「長瀬新田遺跡出土火焔型土器」を発見された故石澤巖さんが所有されていた土器について、ほかに見たことがないので、栄村式土器と呼んでもよいのでは、といった提案がありました。

◆栄村希少動植物調査員である、

涌井さん、広瀬さんからはこの3年間の調査で特に分かったギフチョウの産卵条件の発表がありました。条件は3つありますが、ひとつ目は「ある程度の食草の密度があること」ふたつ目は「食草の周囲にギフチョウが飛べる空間があること」みっつ目は「林内よりも林縁を産卵場所として好むこと」です。ギフチョウはやはり人の手が入った里山環境を好むようです。さらに

栄村で数十年ぶりの発見ではないかと思われるトンボの確認など貴重な発見を伝えてくれました。やっぱりすごいぜ！栄村！

◆長野県林業総合センターの柳澤

さんからは、「秋山熊」の杉の皮むき被害、そして被害を防ぐための忌避剤の開発・試験の結果の発表がありました。秋山熊は長野県のほかの地域と違い、立ち上がって樹皮を剥ぐことから地面から1mほどのところに忌避剤を付ける必要があること、忌避剤は効いているようですが塗っていない林以外の林で皮むきがあったことから、忌避剤を避けて、林を移動したとも考えられることも話されました。熊はやはり頭がよいですね。捕獲と並行し、うまくクマと付き合っていく必要があります。

◆明星大学の長谷川さんからは、

昨年起きた秋山の土砂崩れ、青倉対岸の土砂崩れのことについて発表がありました。栄村では昔から地滑りが起こっており、切明の地滑りは古文書にも書いてあること、今回青倉で起きた地滑りはもともと12万年前に開田山脈側から落ちてきた地滑りの土がまた崩れたものであることなどが話されました。さらに、

地球の誕生から現代までを1年で例えると、私たちが「人の歴史」として認識している時代は12月31日の深夜12時59分前後でしかないことなども話して頂きました。地球や地面の歴史からすると、謙虚に生きなければならぬと思わされますね。

◆地域史料保全有志の会代表の白

水さんからは「秋山の始まりについて」ということで、秋山にいつ人が住み着いたのかという発表がありました。秋山にあるリュウ（洞窟のこと）には、平安時代と思われる土器が出てきていますし、鎌倉時代に書かれた「市河文書」では「あけ山」と書いて秋山のことが出てきます。おおむね1200〜



昭和51年「あさひのリュウ」で発見されたと
思われる資料

1300年代には「あけ山」として人が入り活動をする生活の一部の山だったのではないかと推測されています。私たちはぜひぶん昔からこの栄村に住み続けてきたのですね。

◆最後に富士山世界遺産センター

の井上さんから秋山木鉢についての発表がありました。柄の木を使って手彫りで作る木鉢は全国的に見ても大変珍しいこと、故山田和幸さん宅で大切に保管している木鉢づくりの道具の紹介、「嫁入り道具」として持ってきた木鉢の情報、木鉢に関する聞き取り調査の概要などを話していただきました。木鉢は単なる販売品でなく、記憶をも伝承する日常的な道具であることが改めて確認できたとのことでした。

今回の話を振り返ると、栄村の地面のことから、地面の中にあつた土器、歴史、私たちの現在の生活や自然との関係など様々なことや関りの中で私たちがいま生きていくことがわかる気がしています。

私たちにとっての豊かな日常を、私たちがここにいるということとできる限り後世に残していきたいものですね。

スポット!

楽しい人生に趣味は欠かせない!
家のことに百姓仕事、地区行事いろいろ
ある。そんな日常の中で趣味を持ち、
いきいき輝く方にスポット!
その楽しさ・魅力を発信します。



今回のスポットは栄村盆栽研究会
会長の石沢 正さん

さつき盆栽を楽しむ



5月下旬になるとひとときわ目立つようにびっしり花が付いた盆栽を見かけます。「さつき」です。家の玄関先に手入れが行き届いたいくつもの鉢が並び見映えする、志久見の石沢 正さんを訪ねました。

◆さつき盆栽との出会いはいつ頃ですか?

さつきとの出会いは20数年ほど前に一つの鉢を買ったんだよ。当時、森の広瀬治夫(故)さんが仲間に呼びかけ「栄村盆栽研究会」を立ち上げ、箕作の高橋康文さんが先生で素人集団がさつき盆栽に熱中したんだよ。今では20鉢ほどが並んで花を咲かせるのを待っているんだ。



◆そばに寄ってみると「え〜!このさつき何年ものなんだろう?」という幹の太さに驚きました。隣には奇妙な形をして幹が何本もあるようなものがあるが、これは?

「根上がり」という樹形だよ。こうやって色々な工夫をして何年もの年数をかけて世界に一つだけのさつきを作る



取材時花盛りの桜

◆1鉢ごとに思いが詰まっているようです。長い年月手をかけて毎日のお付き合いが楽しいんでしょうね。子育てと同じですね。さつき盆栽の面白さ、魅力って何ですかね?

さつきはね、一本の樹に何色もの花を咲き分けるんだよな。それが他の花より面白いところだな。そんな花が咲くのが楽しみなだけさ。冬も水を与えなければならぬから置き場所にも気を配るんだよ。今の仲間は5〜6人になったが、コロナ前までは道の駅などで展示をしていたんだよ。今年はどこかで皆さんに見ていただけよう機会を作りたいと思っているんだけどな。

◆5月下旬の花盛りの時が楽しみですね。これからのさつき盆栽をどうしていきたいですか?

自分ができなくなった時を考えて

ね、育ててきたさつきの里親探しをしていかなければならないと思ってるんだ。興味があつたらさ、2〜3年一緒に楽しんで里親になって引き取ってくれればいいんだけどね。さつきはずっと花を咲かせていくからねえ。

◆里親探しですね。大勢の人に見ていただく機会を作っていきましよう。 ◆この村で暮らす価値観を聞いてみました

いろんなことに好奇心と遊び心を持つことかなあ、働くばっかしじゃあな、趣味がなくなっちゃ。この村には面白いことはたくさんあるからね。活気がありそうな集落は飲み会とか顔を合わせ機会を作っているよ。ボランティア活動も大事だね。

好奇心と遊び心ですね。ステキな花を楽しむにしています。興味のある方は声をかけてくださいね。



さつき盆栽の花
森 広瀬隆司さんより写真提供

おら村のほっこり話

静かにたたずむ慰霊碑を知る



原向集落から切欠堤を通り東部パイロット開拓畑に続く農免道路西ノ峰線の傍らにポツンとたたずむ碑があるのをご存じだろうか。

真冬に遭難した人がいたと言う話をずいぶん昔に聞いたことがあったので、原向の中村正文さんを訪ね詳しい話を伺った。



戦後間もない昭和21年1月16日午後8時頃の出来事であった。当時長瀬にあった中野警察署長瀬駐在所に勤務していた大澤敏親巡査部長の殉職慰霊碑である。大澤さんは当時統制下であった薪炭の取り締まりと現金盗難事件の捜査のため、2メートルを超える積雪の中を巡回中に猛吹雪に会い、湧き水が出ていた奥宮地籍で倒れ殉職した。

当時、野田沢にあった役場と長瀬駐在所の道中らしいが、今では想像できない道なりである。住民の暮らしを守る使命に殉じた大澤さん

んに村の人たちは遺体が見つかった湧き水付近に功を称える碑を建てた。それから80年近くになるろうとしているが、この出来事も知る人は少なくなってきたらう。毎年、東部パイロット開拓事業組合が慰霊碑周辺の刈り払いをしていたが、組合解散後は中村さんが刈払いをしているそう。1年1度だけ草刈りをしているだけさ。」そんなほっこりした話を聞いた。並んで立つ農免道路西ノ峰線の竣工モニュメントのかたつむりと慰霊碑に今は桜吹雪が舞っている。



栄村誌のコラムが おもしろい!

No.7

村誌「コラムから」

栄村誌を眺めてみたら
知らないことだらけ

樋口正幸さん

「歴史編」面白いものがぎっしり詰まった宝箱のよう。端から端まで読み込んでいけばそれはそれは面白いだろうな。しかしながら深掘りが苦手でどこから手を付けたらいいのか難しい。

目次を眺めていたら「コラム」というのが目に付いた。コラム1では「栄村最初の特産品」特産品??タイトルに興味を引き寄せられた。次のコラムは何か?最後のコラム14では「千曲川と小滝の渡し舟」小滝??そんな感じでコラムを読み始めた。

第1章の原始・古代、第2章の中世、第3章の近世、第4章の近代、第5章の現代までに14のコラムが掲載されている。専門分野の先生方のコラムには「へへ」「なるほど」「そうなんだ」と入り込んで妙に納得したりして面白

い。次に探すのは自分が暮らす集落のどこかにあるかな?と目次を見たり写真を見たり。やはり身近なものは知りたくないものですね。第6章の民俗はやはり面白い。この地での暮らしや文化が垣間見られて引き込まれていくのです。写真も豊富です。最後の「栄村誌年表」も眺めていて面白い。はるか遠い時代を巡り自分が生まれ生きてきた現代までの生い立ちはボリュームがあるものだ。この地での暮らしを営んできた先人たちの想いを継承していかねばとも思いながら、ここでも身近なことを発見するとドキッとしてたりする。

「自然編」はとにかく写真がたくさん掲載されて見ごたえがある。この地の豊かな自然というものが凝縮されているようだ。自然編もコラムがたくさんあって面白い。2冊の栄村誌をそばに置いておき、ちょこちょこ開いてみようと思う。

あーそんなことがあったんか
ど先生の栄村昔語り、其の五十六

『元文五年の村定法』



地域史料保全有志の会
鈴木 努 (通称：ど先生)
イラスト作成：佐藤洋平

五月になりました。早々と夏日の気象情報が出るほど暖かくなり、田の作業が忙しくなる時期、お変わりなくお過ごしですか。雪国の春は雪のない地方にくらべ、春に芽吹く花々が時期を措かず一斉に咲くので一層華やかだと言われます。「松前の五月は江戸にもない」と、これは二シン漁の盛況を指すとも言われますが、景気の良さに雪を忍んだ花々が彩りを加える様子が窺えるように思います。

昨年、栄村誌刊行に続き、この三月末日に『栄村域所在古文書目録』が発行されました。五年に亘る村誌編纂で歴史をひもとくために沢山の古文書が調査・整理されました。その成果をまとめた『古文書目録』刊行は、これらの古文書について、村誌刊行以後もさらに多くの情報を引き出し、語りきれなかった事柄も含めて保存し、活用していく営みでもあります。また多くの古文書が村に寄贈されましたので、今後古文書を見たい、読みたいという場合に、それぞれのお宅で保管されていた頃よりも所蔵者・閲覧者双方の負担がかなり解消されました。そして『古文書目録』は見たい、読みたいという時のガイドブックでもあります。村の皆さんにとり古文書がさらに親しみやすいものになることを願っております。

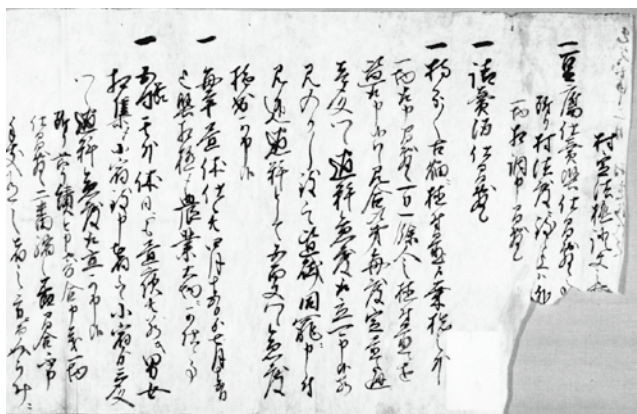
ところで村内の古文書の多くが

目録に載ることのメリットについては、ざっと見ていてもいつ頃にどんなことがあり、誰が関わっていたかが判ってくるがあります。各家・各地区をまたいで同時的に関連史料がある、など事柄の拡がり具合を見つかったり、同じ性格の史料を並べて比較してみたり、情報を縦横に組み合わせる色々と自分なりの考え方、分析ができるようになります。また村の中でも一つしか見つからない史料があれば、その特異性を考えることもできるでしょう。

今回取り上げるのは島田汎家文書にある元文五年三月の村定法です。目録では同年同月付けで村定法と、持ち林の取極め、用水堰端の刈取についての取極めが並んでいます。元文五年は新田検地が入り、比較的同年付けの史料は多いのですが、他の史料群に検索範囲を広げても村定法の事例は見つかりませんでした。

この村定法は全部で五か条あり、第一条が豆腐商売の禁止、以下、酒の請売りの禁止(第二条)、桑・楮の盗み取り禁止(第三条)、四月から七月まで農事大切にすること

(第四条)、若者相手の小宿と「芋績」と称する寄合の禁止(第五条)が記され、全体として商売よりも農事に励み、風紀を取り締まるという内容に見えます。このうち第二条・第三条は「栄村誌」でも取り上げられています。酒の請売り(委託販売や問屋から仕入れて小売りすること)が箕作村での酒造家の利益を守るため禁止された、としたら豆腐商売の禁止にはどんな意味があるのか、次回はその辺りを調べてみたいと思います。



元文5年村定法 (冒頭部分)

栄村公民館 図書室だより

..... 2023.5

村内移動図書のご利用ありがとうございました

栄村公民館図書室で12月から3月まで村内移動図書を実施しました。今シーズンは初めてご利用していただいた方も多く、のべ200名のご利用がありました。600冊以上の本が貸し出され最後の巡回日は「楽しませてもらった」と嬉しい声をたくさんいただきました。春からはぜひ公民館図書室まで足をお運びください！

図書室にも来てください！



公民館図書室のテーマコーナーは、お花や庭づくりの本がいっぱい！

こどもの読書週間

子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所をとの願いから、「こどもの読書週間」は1959年（昭和34年）に誕生しました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間（5月1日～14日）でしたが、子どもの読書への関心の高まりを受けて、「子ども読書年」である2000年より現在の4月23日（世界本の日・子ども読書の日）～5月12日に期間を延長しました。開始当時より、図書館・書店・学校を中心に、子どもたちに本を手渡すさまざまな行事が行われてきました。幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことが、子どもたちにとってどんなに大切なことか……。子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えるとき、それが「こどもの読書週間」です。



新着図書の紹介

- 魔女と過ごした七日間（東野圭吾）・黄色い家（川上未映子）
- 悪と無垢（一木けい）・法廷遊戯（五十嵐律人）
- あわのまにまに（吉川トリコ）・四日間家族（川瀬七緒）
- 荒地の家族（佐藤厚志）・ラブカは静かに弓を持つ（安壇美緒）
- せいっぱいの悪口（堀 静香）
- 川のほとりに立つ者は（寺地はるな）
- 水曜日のおじさんたち（鈴井貴之／藤村忠寿／嬉野雅道）
- “おもしろい地域には、おもしろいデザイナーがいる地域×デザインの実践”（新山直広／坂本大祐／小林新也／〔ほか〕 著）



★図書ボランティア募集中！★

栄村公民館図書室では土日の午前中、図書室を開けてくださるボランティアさんを募集しています。読書の習慣もできますよ。栄村在住の成人している方ならどなたでもできます。1～2か月に1度の当番です。お問い合わせは栄村教育委員会事務局 ☎87-3118までお願いします。

★栄村図書室開放時間★

平日 午前8時半～午後5時
土・日 午前9時～正午
※祝日は休館します

★休館日のお知らせ★

5月3日(水)～5月7日(日)

★お知らせ★

もし本を破いてしまったら修理せずそのままにし返却時に破損箇所を教えてください。



斎藤大輔さん（箕作）

私が今ハマっていることは、娘との野球の練習です！毎日の練習の中で、成長していく姿を見られることがとても嬉しいです。時には鬼のように怒る時もありますが、娘はそれにもめげずに頑張っています！頼もしい限りです。

公式戦でヒットを打つことが今の目標です。これからの時期は、農村広場で練習していることが多いので、みなさんグローブを持って寄ってくださいね！！



おおきくな～れ



介くん 年長さんだよ。
ひまわりさんだよ。

かい
介さん（5歳）

年長さんになってお兄ちゃん意識が出てきて頑張っている様でまだまだ甘えん坊な所もある介。今後の成長も楽しみです。元気いっぱいおおきくな～れ！

勝家玄太さん・志穂さん宅（横倉）

ようこそ！ 栄村へ！！



中村美加さん（長瀬）

Q1 栄村に帰ってきた理由は？

① 昨年、母と祖父が亡くなったのですが、ぜんぜん家族孝行できていなかった後悔が残りました。その思いから、実家を守ってほしいという父の願いに応えたい気持ちが生まれました。それが一番大きな理由です。富山県にも家がありますので栄村と行き来しながら生活をしたと思っています。

Q2 帰ってきて改めて感じることは

① 先日、移住者の方々とお話しする機会があったのですが、村での暮らしについて私よりよくご存じでした。

私は中学卒業までの子供時代しか栄村で過ごしていないので、知らなくて当たり前なのですが、私は栄村のことをあまり知らないんだなあ…と、ちょっと寂しかったです。これから覚え（思い出）します！

Q3 栄村でどんな生活を送りたいですか？

① 富山県での現在の仕事が在宅でもできるので、続けながら、栄村での生活の基盤づくりをしていこうと思っています。

父の農業の仕事も教えてもらいながら、それ以外にも田舎暮らしでやってみたいことが色々あるので、少しずつ取り組めたらいいなと思っています。

ご近所さんや、父の仕事の関係の方々、栄村へ移り住んでくださった方々との交流も楽しみにしているので、どうぞよろしくお願ひします。

なんじゃこりゃ



野山を歩いていると、不思議な蕾を見つけました。わさわさと繁るニンジンのような葉っぱにつぶつぶの塊。なんだろうと思って草花に詳しい方に聞いてみるとフクジュソウの実だそうです。黄色くて可憐な花と思っていましたが、時期が違ふとまったく違う様相を見せるものですね。公民館では引き続き面白いものを募集しています。

おら村の宝！ 号外

前号「おら村の宝！その6」で栄村のそばを紹介しました。そのオヤマボクチとふのりの「天神そば」打ち講習会の会場となった北野天満温泉が、新たな取り組みを始めました。

講習会で覚えたそば打ちの技を忘れず、今後もつないでいけるように1階の「そば打ち処」を開放し、そば打ちの場を提供していきたいそう。そば粉や打ち粉、つなぎとなるオヤマボクチやフノリも有料で用意してくれるとのこと。

天神そばを作るにはオヤマボクチの繊維の取り方も継承していく必要があるなどまだまだ課題は多いですが、明るいニュースでうれしいことですね。



北野天満温泉「そば打ち処」での講習会の様子

栄村二十歳の集い(旧成人式)のおしらせ

今年度も「二十歳の集い」を行いますので、20歳の皆さんはぜひご予約ください。

令和5年度「三十歳の集い」

- 対象者：平成14年4月2日生～平成15年4月1日生までの方
- 期 日：令和5年8月15日(火)
- 会 場：栄村文化会館かたくりホール

編集後記

4年ぶりに公民館報の編集の一翼を担ったこととなった。あの頃から比べると、子も大きくなり、いろいろと責任も増し、イヤァてんでこまいてんでこまいて。編集委員の皆様や館長のおかげで今回も何とか入稿することが出来た。本当にありがとうございました。先に謝るのもおかしいが、誤字脱字や変な文書などあればそれはすべて私のせいです。ゴメンナサイ…。

とところで春ですね。今年は雪解けが早く、4月も半ばからタラの芽を頂いた。山菜を探るのが好きで、今年初めてたべたものはイカリソウ。滋養強壮に聞くというが、その名に恥じず苦かった。確かにこれは薬だな。苦いと言えは、山菜の中ではキノメ(アケビの芽)が一番好きである。ついついもりもり採って茹でて、卵と醤油、時にはシラスもかけたりして食べる。この季節毎晩茶碗1杯は食べている気がする。これから初夏。ブッポウソウが飛び、クマタカが舞い、野にトラクターや田植え機が唸りを上げて走り出す季節。汗と土。忙しいけどワクワクする。移り変わりを感じながら、皆さんの足跡をしっかりと残していける公民館報を作っていきたいと思う。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

(勇)

今月の一句 ~栄村俳句会~

野仏にまんさく一枝もらいくる
ランドセル見せに四人と一匹と

関谷貞子

カーテンを引く手とどむる春夕焼
うららかや子山羊の鼻はピンク色

柳 静江

山桜舞台は広し秋山郷
桜香よ待ち焦がれしは十二月

山田くにえ

初つばめ小屋軒先の偵察に
俳句会まずは山菜味わって

杉浦恵子